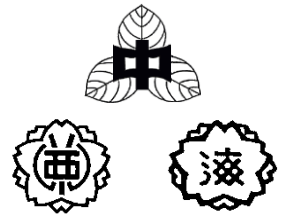


# 風は西から



平成 29 年 11 月 21 日 第 3 号

平成 29 年度「学びの変革」アクション・プランパイロット校事業  
平成 29 年度 21 世紀型能力育成総合対策事業（海田西中学校区）

## 第 4 回授業研究協議会（H29. 11. 9）報告

平成 29 年度研究主題

主体的に学びを深める児童生徒の育成

～協働・対話による「課題発見・解決学習」授業づくりを通して～

### 1 授業について

○日時・学年 平成 29 年 11 月 9 日（木）13：20～16：35 海田西中学校 第 1 学年

内容・授業者 保健体育科「柔道」 授業者 山本 道隆 教諭

○授業の流れ

#### 本時の目標

抑え込みで、1 本とれる技をつることができる。

#### 学習展開

1. 黙想・座礼
2. 準備運動・補強運動
3. 受け身練習
4. 本字の目標の確認

「抑え込みで 1 本のとれる技をつることができる」

5. 少人数グループで役割を持って、個人が 1 本のとれる技を試す。  
各グループ毎、1 本とれる技を共有できるよう話し合い、そのポイントを含め、やり方を書き残す。
6. 他グループと交流する中でその技を試す。
7. 学習のまとめ・振り返り
8. 次時の予告

○授業者より

- ・次期学習指導要領を意識し本時を新たに組こんだ。
- ・固め技を 3 つ教えながら自分の技をつくりあげる授業を行っている。
- ・生徒が試す→初めて知る技「なるほど」「あ、そうか」
- ・1 本のとれる技を共有できるように話し合い、そのポイントを文章にするのが難しい。
- ・振り返りの場面で「返されてしまった」で終わっているだろうから、教師が承認してやれば、他にも言葉がでたかもしれない。



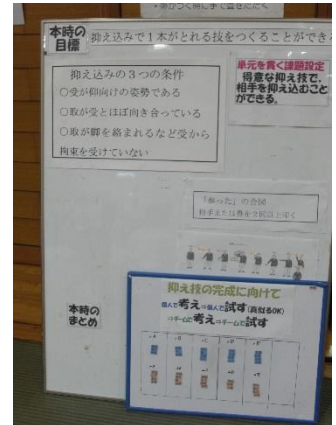
## 2 協議について (成果：◎ 課題・改善点：▲)

### 【協議の柱】

- ①生徒が「単元を貫く課題」の解決に向けて主体的に取り組んでいたか。
- ②生徒の思考が深まるかかわりあいできていたか。
- ③生徒が単元のゴールに迫る振り返りをしていたか。

### ①について

- ◎ シンプルで分かりやすい学習課題であった。
- ◎ 「技を教えないで、技を考えさせる」→生徒の主体性につながっている
- ◎ ヒントになる言葉やワークシートがあり、具体的に考えることができた。
- ◎ 安全面の配慮があった。(音を合わせる=心を合わせる)
- ▲ 本時のめあての持たせ方を、生徒に考えさせても良いのではないか。
- ▲ 「単元を貫く課題」の提示をより大きく目立つようにするほうがよい。



### ②について

- ◎ 「それはだめ」「こうしたら」という言葉がたくさん聞こえた。
- ◎ グループのメンバーそれぞれに役割があった。
- ◎ 動きを言語化することが深い思考の手立てになっていた。
- ▲ 動きを文章にするのが難しい→タブレットの活用。



### ③について

- ◎ 動きと言葉で行っていた
- ◎ 受への感謝がある→戦いではなく、相手を重んじる武道
- ▲ 振り返りの視点を明確にする。→思考したことを確かめる
- ▲ 発表のさせ方の工夫 取「どう考えて、何をどうしたか」言葉で説明した後、実際に技をかけてみる  
→受「どうされたのが困った」を述べる

### ○広島県西部教育事務所 教育指導課 片淵善久指導主事より (概要)

- ・生徒に考えさせる、授業の特質に出会えた授業であった。
- ・子どもたちの動きに変化が見られた。  
遠慮がちに抑える・逃げる → 試す → 力を入れるポイントが分かる → 本気
- ・動きを言語化する中で、かかわりあいを持っていた。  
→ 必然性があるため、4人グループの全員がかかわりあっている。
- ・自信满满で技を見せた2人がすぐに返された。→思考の連続性 (次につながる)

### ★今後に向けて

1. 思考の連続性…振り返りから次の課題につなげる
2. 生徒の姿の変容…学び合いのよさを教師が価値付ける  
「〇〇なかかわり合いができていたから、君たちは伸びたんだね」

### ○広島県西部教育事務所 教育指導課 吉原知美指導主事より (概要)

#### ★6校推進協議会より

- ・地域の財(人材・施設など)を教師が知る。
- ・自分の考えを持つためにも、知識の定着が大切である。
- ・深い学びの実現のためにも、個のつまづきをいかに解消するか。
- ・カリキュラム・デザイン→PDCAサイクルで無理なく内容をつなぐ(カリキュラム・マネジメント)
- ・教科の本質のおもしろさ→小中連携で単元開発につなぐ